

# へきけんニュース

ホームページ [https://www.hokkyodai.ac.jp/edu\\_center\\_remoteplace/](https://www.hokkyodai.ac.jp/edu_center_remoteplace/)  
メールアドレス kus-hekiken@j.hokkyodai.ac.jp  
☎ 0154-44-3291 FAX 0154-44-3292



背景は北海道教育大学札幌校

## 令和3年度札幌校へき地校体験実習報告会 を開催しました

北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター  
へき地教育アドバイザー 加藤 雅子

### 1 はじめに



加藤雅子  
アドバイザー

11月19日(金)、今年度の「札幌校へき地校体験実習」の事後指導・実習報告会が行われました。

昨年度はコロナ禍の影響が心配されましたが、11校で28名の学生が無事に実習を行うことができました。今年度こそ、予定通りに実施できないかという期待は外れ、コロナ禍は昨年よりも深刻な事態となってしまいました。そんな中、予定13校中5校で中止、実施8校中4校で時期を延期しての実施ということになりました。

体調管理や、感染症対策など、昨年度にも増して心配されましたが、受入校や各教育委員会の協力はもとより、関係各位のご理解、ご支援をいただいたことに、深く感謝いたします。

昨年に引き続き、事後指導・実習報告会は対面で実施することができましたが、Zoomを併用して実習受入校にも参加を呼び掛けたところ、実際に数校にご参加いただけたことも、学生にとって大きな励みになったようです。



玉井康之  
センター長

### 2 発表の概要



はじめに玉井康之センター長よりご挨拶があり、へき地校体験実習の意義と期待についてお話しいただきました。

その後、実習校ごとに学生がPowerPointを使用して実習の様子や感想、考察を発表しました。

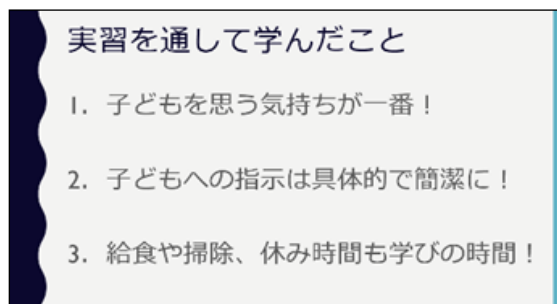
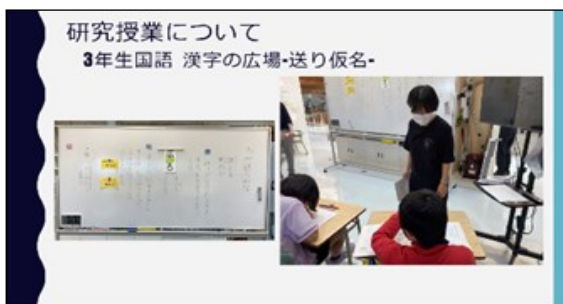
すべての発表の終了後、へき研センター札幌キャンパス代表前田賢次准教授から講評がありました。講評の中で、実習校のうち三笠市立岡山小学校の高岸校長から、Zoomを通してご感想をいただきました。

今回の発表会では、ICTの活用により、実習校も参加可能になり、双方向性を持つことができたのは大きな成果であると考えます。学校現場がまだ子どもがいる時間帯ということもあり、実習校からの参加数は多くないのが課題ですが、動画配信などを活用して今後幅を広げていきたいです。

### 3 各校の発表について

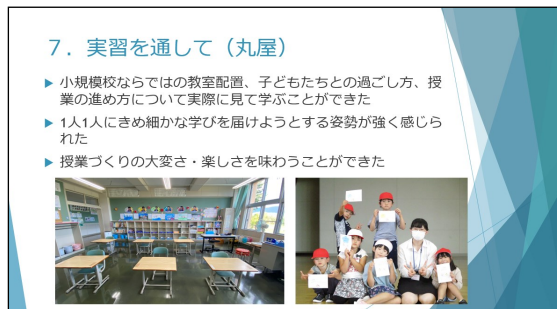
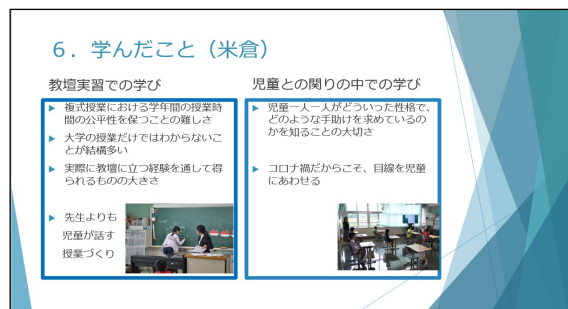
#### ①糸魚小学校

実習生2名とも教壇実習を行うことができたことが大きな収穫でした。子どもに接する心構え、授業実践における学びについて、また農園活動等、具体例を交えて糸魚小学校ならではの活動についても報告されていました。



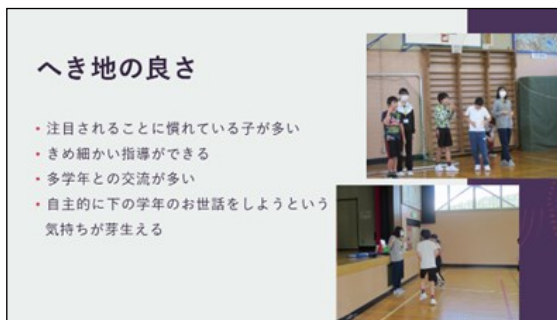
#### ②幌加内小学校

幌加内小学校では教壇実習を複数回体験させていただくことができ、濃い内容の実習となっていたことが報告されました。実習生一人一人がその中で学んだことをまとめることができました。



#### ③温根別小学校

実習生が2名とも英語科の学生ということもあり、小学校における英語の教壇実習を実施することができました。きめ細かな指導や学年をまたいだ交流など、へき地校の良さをとらえて報告することができました。




#### ④幌加内中学校

町内で唯一の中学校ということで、通学時間の長さ等、へき地複式学級教育の抱える課題についての報告がありました。学校だけでなく、地域の暮らし等についても体験できたことから、土地に対する愛情も感じ取ることができたと述べられました。

### 幌加内中学校について

- ・町内で唯一の中学校
- ・へき地等級2級
- ・全5学級(うち特別支援学級が2クラス)
- ・全学級単式
- ・教職員18名、全校生徒29名



### 実習内容

- ・9月14日(火)～9月17日(金)までの4日間  
菊地は1学年、竹内は2学年に配属
- ・教壇実習は行わなかったが、授業参観することができた!
- ・部活動や研究授業も見学  
研究授業後の校内研修にも参加



#### ⑤種川小学校

複式学級での実践を通してその難しさを実感したという報告がありました。一人一人に余裕をもってかかわることのできるよさを体感し、将来、へき地・小規模校で働きたいという気持ちが高まった、という感想が印象的でした。

### 学んだこと①

- ・二つの学年に違う授業を一人の教師が教えることの難しさ。
- ・**視野を広くすることの必要性**
- ・高学年ほど、児童のリーダー中心に授業を進行する時間が増える。
- ・低学年は【マニュアル通り】  
高学年は【マニュアル+主体性】で進める。

### 実習を終えて①

【研修詩編】


- ・将来へき地小規模校で働きたいという気持ちが強まった。
- ・子どもたちがのびのびと過ごしている学校の雰囲気が素晴らしいと感じた。
- ・環境面でのストレスが少ないと感じた。
- ・ゆとりのある学校で勤務することで教師にも余裕が生まれ、熱意ある授業や子ども一人一人と向きあえる丁寧な関わりができるのだと考えた。
- ・指導力などのレベルアップを図っていきたい。

#### ⑥初山別小学校

教壇実習においては時間配分や指示の出し方の難しさ等について反省点が報告されていました。子どもの素直さ、人の温かさなど、へき地校のよさを改めて実感したという感想が述べられていました。


### 子どもへの関わり方

- 授業での指示の出し方
- 声をかけるときの意図を明確にすること
- 子どものほめ方



### 小規模校での指導

- 子どもの人数が少ない中、教師が子どもたちに身につけてほしい力をどのようにして指導していくか
- 複式学級の授業形態、縦割り活動など学校での取り組み




#### ⑦岡山小学校

へき地校ならではの子どもとのコミュニケーションの在り方や、一人一人を的確に見取ることの大切さや難しさについて学んだことが報告されていました。学生2名とも教壇実習することができたのも大きな学びになった様子が伺えました。


### 研究授業(加藤)

- ・算数 1年 「ひきざん」
- ・授業の目標  
十何-1位数で繰り下がりのある減法の計算のしかた(減加法・減減法)を理解する。
- ・反省点・改善点  
前半に丁寧に授業をしたせいで、時間がなくなってしまった。それに気づいて、焦ってしまい児童の発言をする機会を奪ってしまった。児童の実態をしっかり把握し、時間配分をもっとしっかり考えるべきであった。



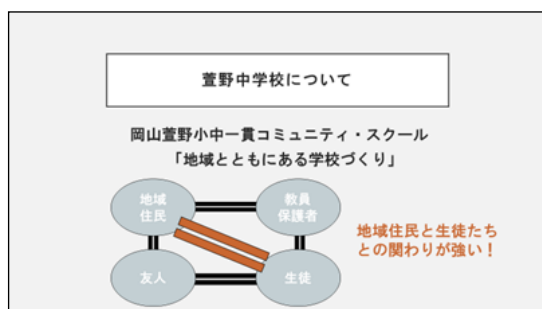
### 研究授業(中村)

- ・算数 2年 「かけ算の活用」
- ・授業の目標  
九九を活用して問題を解決し、乗法についての理解を深める。
- ・反省点・改善点  
時間配分を気にしすぎて、全体をよく見ることが、児童への声掛けが疎かになってしまった。想定とは違う答えが出たり、指導案とは違う流れになり焦ってしまったので、臨機応変に対応する力が必要であると感じた。



## ⑧萱野中学校

教壇実習は行わなかったが、担任業務を体験できたことで大きな学びになったとの報告がありました。また、食・住をお世話になったことに触れ、学校だけでなく、地域の人に対する深い感謝を述べていました。



## 4 全体を通して

学生たちの発表からは、「へき地・小規模校の教師になりたいという気持ちが高まった。」「学校だけでなく、地域についても学ぶことができ、実習に参加して本当に良かった。」「実際に体験するということが貴重な経験である。」という声が、実習校に係わらず異口同音に聞かれたのが大変印象的でした。

また、教壇実習を行えた学生は、授業づくりや事後検討会等を通じ、先生方から多くを学んだ様子でした。

学校での実習のみならず、地域での生活についても、「地域の方の温かさに触れることができた。」「行った土地に、愛情をもつことができた。」等、実際にへき地に滞在することの意義を感じる発言もありました。

実習の最終日には離任式やお別れ会を催してもらい、その中で学生が号泣してしまった様子も紹介され、短い期間ながら、濃密な時間を過ごしたことが感じられました。

報告が終了した後、Zoomで参加していただいた実習校の校長先生、前田准教授からの講評をいただき、実習生一人一人に「へき地プログラム修了証」を手渡し、約1時間半にわたる報告会を終了しました。



## 5 おわりに

終了後、Zoomで参加した実習校の校長先生から、職員室の皆で発表会を参観しての感想や、発表した学生に対して励ましの言葉をメールでいただきました。実習後も学生に対して支援の気持ちを抱いてくださることに、当センターの教員として深い感謝の念を抱きました。

今年度もコロナ禍が続き、常に状況が流動的な厳しい中での実習でしたが、実習校や教育委員会、地域の方々等の協力のおかげで、無事に終了することができました。

学生の学びの場を提供してくださった関係各位に、厚くお礼を申し上げます。



【前田准教授からは、へき地校実習の原点や意義等について指導があった。】